

## 第439回 幹事会だより

7月30日(金)於 ホテル「ホップイン」 参加:5人

### ○ 尼崎支部の会員数と組織率

7/29 現在 医科 380人(83%)、歯科 135人(52.5%)

### ○ 医療をめぐる情勢と運動対策

国保料、受診抑制調査、県立病院の統合再編問題等について意見交換した。

### ○ 当面の支部活動

10月7日(木)18:30~中小企業センターにて第77回医療と福祉を考える会を開催予定。

### ○ 次回の幹事会

8月27日(金)20時から塚口・「SATSUMAYA」で開催予定。会員の先生はどなたでもご参加いただけます。お問い合わせはTEL 078-393-1803 長澤まで

## 患者署名にご協力ください!!



患者の窓口負担の軽減、後期高齢者医療制度の即時廃止を求める請願署名です。

ポスター・リーフレットとあわせて医院でご活用下さい。

署名

追加のご注文は、TEL 078-393-1807 まで

## 健康情報テレホンサービス

< 9月のテーマ >

通話料無料 (0120) 979-451

月曜日 顎の異常と全身との関わり (前編)

火曜日 顎の異常と全身との関わり (後編)

水曜日 骨も鍛えれば丈夫になる

木曜日 頭を打った時

金土日 うおの目とたこ

※テレホンサービスは、協会のホームページでもご覧いただけます。既放送分も掲載しています。

<http://www.hhk.jp/>

## 兵庫県保険医協会

# 尼崎支部ニュース

313号

2010年8月25日付

〒660-0055 尼崎市稲葉元町2-11-10 八木クリニック内  
兵庫県保険医協会尼崎支部 TEL06-6417-6600 FAX06-6417-6011

## 県政を動かした運動を確信に

### - 県塚の会が第3回総会を開催

「県立塚口病院の存続と充実を求める会」は8月1日、さんさんタウン・コミュニティホールで第3回総会を開催し、市民ら60人が参加した。協会からは八木秀満支部長、綿谷茂樹副支部長が参加した。

基調報告では、宮田静則事務局長がこれまでの経過を説明し、同会の運動が、「県立尼崎病院に一部統合し県立塚口病院は廃止」とした

当初の県の方針を覆し、新病院建設、両病院跡地には200床規模の医療・福祉施設の誘致へと市民の声を一定反映させたことを確信に、今後も運動を強めようと訴えた。



閉会挨拶する船越正信副代表

当面の県への要望としては、“断らない救急”を目指した新病院建設の基本構想を完全に実現させること、両病院の跡地に有床の医療機関を設置すること、県立塚口病院の当面必要な医師の確保などが挙げられた。

またそれに伴い、会の名称を「県立塚口病院の充実と尼崎市及び阪神地域の医療を考える会(通称・県塚の会)」に変更し、阪神地域全体のより



開会挨拶する綿谷茂樹副代表

り広範な市民を巻き込んで運動を進展させていく方針が提案され、了承された。

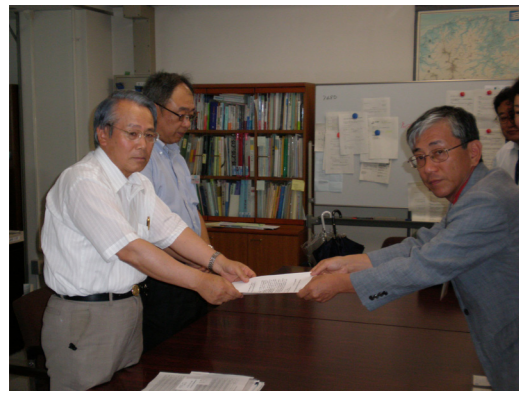
記念講演では、元尼崎市消防局長の吉田寛氏が「消防救急からみた尼崎市における救急医療の課題」と題して講演し、兵庫県内で救急の受け入れが最も困難な現状を伝えた。

役員体制は、代表に畠中正昭支部幹事、副代表に船越正信尼崎医療生活協同組合理事長、綿谷茂樹副支部長が再任された。



地元住民らが活発な議論を交わした

## 県立塚口病院の産婦人科医の確保を求め県に要請



要望書を提出する綿谷茂樹副代表(右)、前田盛氏(左)

県塚の会は、7月22日、兵庫県の病院事業管理者の前田盛氏に塚口病院の産婦人科医確保を求める緊急の要望書を提出した。会から同会副代表の綿谷茂樹副支部長が参加した。

要望では、県立塚口病院は、地域周産期医療センターとして重要な役割を担っているが、産婦人科医のうち6月末で1人が退職し、さらに9月に3人の退職が予定されていることから、リスクの高いお産が受けられなくなるなど地域に深刻な影響を及ぼすとし、至急対応するよう求めた。

### 支部総会・感想文紹介

## 患者さんと楽しい時間を過ごせました

尼崎支部総会市民公開記念企画に3名の患者様と一緒に参加しました。

第一部は、ドキュメンタリー映画「アフガンに命の水を〜ペシャワール会26年目の闘い」の上映会でした。中村哲医師と日本人青年達の現地での活動を改めて知ることができました。中村医師がはじめて現地ペシャワールに入られたのはアフガン戦争の真っ只中でした。ハンセン病患者の合併症治療のために医療活動される任務が振り出しで現地の人々とともに26年間、大きな悲しみも乗り越えて活動してこられてい



音楽療法を楽しむ参加者の様子

ます。ハンセン病だけ診ていたらいいのではない。戦乱と干ばつの中で現地の人々に寄り添い生活を理解しようと活動する中でアフガンの民衆にとって、飢えや渴きを治すこと、生きていくことが何よりも重要だとの思いで2003年3月から6年の歳月をかけて全長24kmの用水路の建設の先頭に立ってこられました。

映像を通してアフガン農民たちとの信頼の厚さや労働の喜び、水を得ることによって小麦畑がよみがえり、日々の糧を得ることができ、また伝染病の蔓延を防ぐことになる。1本の用水路が多くの尊い生命を救いアフガンの人々の望む活動であることがよくわかりました。

第2部は、県立塚口病院・音楽療法士の中西幸先生の講演会「音楽療法を体験してみよう」でした。先生は病院の小児科のベットサイドや外来、また老健施設を中心に活動されています。明るくはっきりとした大きな声でユーモアを交え、聴く者の心を和ませながらお話と実技をはじめられました。

(2面のつづき)

「どんぐりころころ」「あんたがたどこさ」「蛙の夜まわり」などの童謡を歌いながら言葉を出す運動や、呼吸運動、タイミングをとる運動が自然とできました。またやわらかいカラーボールを歌いながら一定のタイミングで上に投げることによって前頭葉の刺激になったり、手を動かす訓練になりました。実践していく中で幼少のころを思い出し、童心にかえることができました。楽しみ、心を解放しながら癒され、各機能の回復、維持、改善が得られていくことが体感できました。

一緒に参加された患者様と楽しく、充実した時間を過ごすことができました。

【野村医院・笠井裕美】

### 金楽寺健康教室

## 高齢者は脱水、熱中症に特に注意

震災復興対策として取り組んでいる金楽寺住宅での健康教室を7月28日に開催。今回は高クリニック(杭瀬北新町)の高光重先生が「高齢者の夏バテ対策」をテーマに講演し、入居者ら13人が参加した。

先生は、加齢に伴い、細胞の数が減ることによって細胞内液が減少し脱水しやすくなる高齢者の身体的特徴を説明したうえで、暑さ対策、栄養補給、睡眠・休養のポイントをわかりやすく解説。水分補給では、汗をかいた場合は塩分も必要であることや、冷房が苦手でも除湿機能(ドライ)を使うことで涼しく感じることを、西日はカーテンで遮ることを、ビタミンBの補給が大事であることなど紹介した。また高齢者が家の中で熱中症にかかる原因として、夜中のトイレが気になって水分をほとんど取らない人が多いとし、寝ている間は大量に汗をかくため水分はきちんと取ろうと呼びかけた。



高光重先生が夏バテについて講演

### 尼崎社保協

## 国保署名3529筆を市議会に提出

尼崎社保協は、この間取り組んだ「国保料引き下げを求める署名」3529筆を市議会に提出。6月17日の経済環境市民委員会で審議された。

委員会では榎並憲治事務局長が口答意見陳述に立ち、「尼崎の国保料は負担能力を超えている。4人以上、所得500万円未満の国保世帯は50%が滞納している。かつて自治体の国保収入の50%近くが国庫負担金で賄われていたが、今は25%にとどまっている。市民が安心して暮らすために、国保財政にもっとお金を繰り入れることが必要だ」と訴えた。

陳情項目のうち、「国保国庫負担金引き上げを国へ意見書を上げることを求める」項目が委員会で全会一致で採択され、7月23日の本会議で可決された。